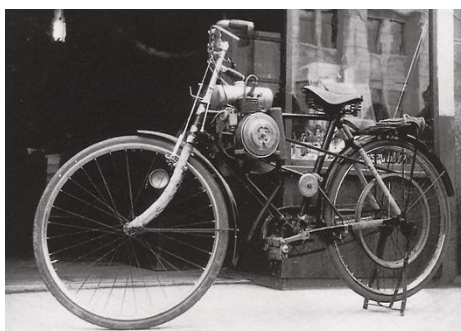


## 1946年 Bicycle Engine 自転車用補助エンジン

旧陸軍の無線機発電用エンジンを改造して製作した、さまざまな自転車に取り付けられる「自転車用補助エンジン」。戦後復興の中で、物資の運搬に使用されていた自転車を、もっと楽に、もっとスピードアップできれば、人々の暮らしが楽になるとの考えから製作されました。補助動力で町を走る自転車は、その排気音から「バタバタ」と呼ばれていました。



エンジンをフレームの内側に搭載し、後輪をVベルトで駆動させる方式を採用。前後のプーリー間に手動式のベルトテンショナーを設けて、ベルトの張力をコントロールすることでクラッチの機能を持たせていました。テンショナーを緩めることでエンジンからの駆動力を遮断し、ペダルによる通常走行もできるシステムは、実用新案に登録されました。

生産は1日に5台程度。製作した補助エンジンは全数を自転車に取り付け、社員による実働テストを経て販売されました。

### 主要諸元

エンジン形式	2ストローク単気筒 ピストンバルブ
排気量	50cc
最高出力	1PS